【今週の注目疾患】

≪結核≫

2024 年第 12 週に県内医療機関から結核の届出が 22 例あった。性別では男性 8 例、女性 14 例であり、年代別では 80 歳以上が 7 例で最も多く、次いで 70 代と 50 代がそれぞれ 6 例、60 代が 2 例、40 代が 1 例と続いた。

2024 年の累計報告数は第 12 週時点で 203 例となっており、性別では男性 122 例（60.1%）、女性 81 例（39.9%）と男性が多かった（図 1）。年代別では 80 歳以上が 53 例（26.1%）、70 代が 41 例（20.2%）、50 代が 37 例（18.2%）の順で多く、70 代以上で約半数近くを占めた（図 2）。病型別では肺結核 91 例（44.8%）、無症状病原体保有者 78 例（38.4%）、その他の結核 27 例（13.3%）、肺結核及びその他の結核 7 例（3.4%）であった。その他の結核で多かったのは結核性胸膜炎 16 例、結核性リンパ節炎 5 例、粟粒結核 5 例であった（複数症状のあるものはそれぞれに計上している）。

県内における 2015 年から 2024 年第 12 週までの累計届出数は 2016 年の 1405 例をピークに減少傾向にある。しかし、第 12 週時点での届出数は 2022 年の 163 例、2023 年の 150 例に比べて 2024 年は 203 例と多くなっている。また、県内の医療機関において、2023 年 11 月から 2024 年 1 月にかけて結核の集団発生が確認されていることから [1]、引き続き発生動向を注視していく必要がある。

図1:2015年から2024年第12週までの千葉県内結核届出数

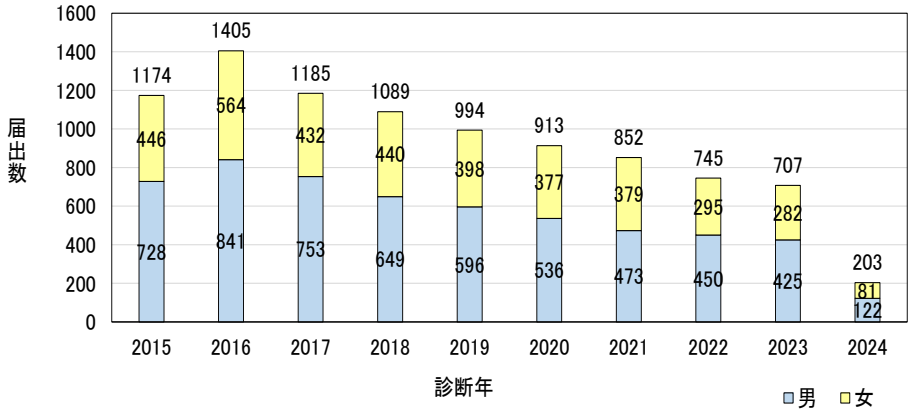
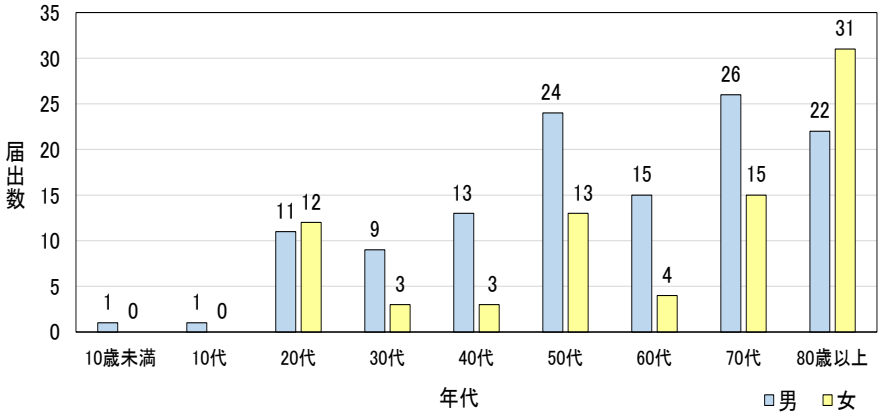


図2:2024年第1週から第12週までの性別年代別千葉県内結核届出数



結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つである。結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがある。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要である[2)]。

結核は肺結核が代表的であるが、それ以外にも頸部リンパ節結核、脊椎カリエス、腸結核、腎結核など全身の様々なところに病巣を形成する（肺外結核）。菌が血流により全身に行きわたり（粟粒結核）、髄膜に到達する結核性髄膜炎などもある。現在では、粟粒結核は早期発見により治癒の可能性が高まっているが、髄膜炎は3分の1が死亡し、治っても半数近くは脳に重い後遺症を残すことがある[3)]。

結核の治療は、無症状病原体保有者については、潜在性結核感染症として3ヶ月から6ヶ月間薬を服用することで発病を予防する。患者についても、一定期間毎日複数の薬を服用して治療する。不適切な服薬の中断は治療に失敗するばかりでなく、結核菌の薬剤耐性化を招く。確実な治療のため、入院中も退院後も医療従事者が服薬を見守る仕組みをDOTSといい、医療機関と保健所が協力して行う[4)]。

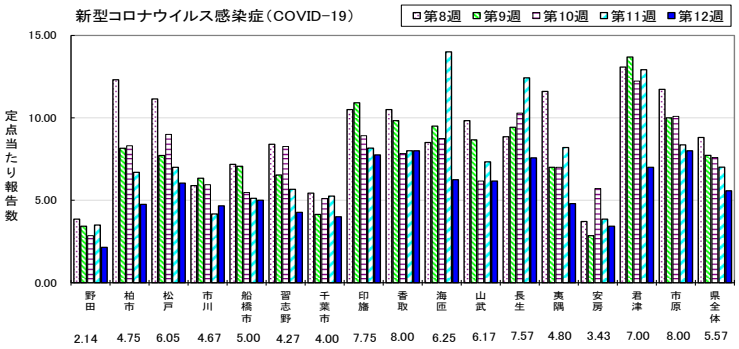
結核の初期症状は風邪に似た症状である。痰のからむ咳・微熱・身体のだるさが2週間以上続く場合 には、早期受診が勧奨される。咳や痰、発熱などの症状が出ないこともあるので、体重減少・食欲がない・寝汗などがある場合にも早期受診を検討されたい[4)]。

■引用・参考

1)千葉県疾病対策課：結核の集団発生について（令和6年2月13日）
https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekkaku/syuudan20240213.html
2)厚生労働省：結核（BCGワクチン）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html
3) 公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の基礎知識
https://jata.or.jp/about_basic.php
4)公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の常識2023
https://jata.or.jp/dl/pdf/common_sense/2023.pdf

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2024年第12週の県全体の定点当たり報告数は、前週の7.00人から減少し、5.57人であった。

地域別では、香取／市原（8.00）、印旛（7.75）保健所管内で患者報告数が多かった（図）。

図：直近5週間の県内COVID-19定点当たり報告数の推移（保健所別）